記者発表資料

平成２６年１２月１５日
国土交通省 東北地方整備局 新庄河川事務所
西　川　町

土砂災害に対する取り組みの実践～まち歩きをもとに検討会を実施～

新庄河川事務所では、土砂災害の発生を未然に防止し、地域住民の生命、財産を守ると共に、地域活動の維持･発展に貢献するため、総合的な砂防事業に取り組んでいます。

このたび、昨今の被災状況等に鑑みたソフト対策の一環として、新庄河川事務所と自治体が連携し、土砂災害の前兆現象を速やかに通報頂くと共に、各種警戒情報等を踏まえて、地域の住民みずからが自主的な対応等を速やかに出来るよう、「まるごと里ごと土砂防災（仮称）※1」の試行的な取り組みを行っています。

今回は、西川町沼山地区（沼山第２町内会）において、先に実施した「まち歩き」をもとに「ＤＩＧ（図上検討）※2（別添１参照）」を実施します。

■実施内容

ＤＩＧ（図上検討）　（まち歩きは、平成２６年１１月２８日（金）実施済み(別添2参照)）

・日　時　：　平成２６年１２月１７日（水）１９：００－２０：００

・実施場所　：　西川町田代公会堂（西川町大字沼山字田代１７２）

■参加人員　　西川町沼山第２町内会 及び 行政側　約１５名程度

※1　国土交通省では、平成１８年7月から生活空間である市街地に水災にかかる各種情報を洪水関連標識として表示する「まるごとまちごとハザードマップ」（別添1参照）を推進しています。これを基に新庄河川事務所では、砂防版として「まるごと里ごと土砂防災(仮称)」と呼び、避難誘導標識の他に手作りの避難経路図の作成に取り組んでいくものです。

＜発表記者会：山形県政記者クラブ、新庄新聞放送記者会＞

＜問い合わせ先＞

国土交通省 東北地方整備局 新庄河川事務所

●副所長（砂防担当）　佐藤（さとう）　勝美（かつみ）　TEL ０２３３（２２）０２５１（代表）

●寒河江川砂防出張所長　大池（おおいけ）　賢一（けんいち）　TEL ０２３７（７４）２３６６

西川町役場

●総務課　危機管理係長　大泉（おおいずみ）　健（たけし）　TEL ０２３７（７４）４４０４

別添１

国土交通省 新庄河川事務所
西　川　町

砂防版　**「まるごと里ごと土砂防災（仮称）」**

西川町における対象地区は、現在「東ノ沢砂防堰堤工事」を行っている西川町沼山地区（沼山第2町内会）で、ハードとソフト両輪での取り組みとして実施しています。



避難誘導標識（戸沢村役場前）の例

【実施項目】
- ・趣旨説明会
- ・各種関連資料の整理・確認（土砂災害、洪水HM等）
- **・ＤＩＧ（図上検討）等、まち歩き（現地確認）**
- ・避難経路等作成、標識等設置

【スケジュール（予定）】

済）平成26年	11月19日（水）	趣旨説明会
済）	〃　11月28日（金）	まち歩き（危険箇所、避難所、避難経路、標識設置箇所）
1）	**〃　12月17日（水）**	**検討会（1）（DIG）　※2**
2）平成27年	2月上旬頃まで	検討会（2）（避難経路、標識設置箇所等の決定）
3）	〃　3月下旬頃まで	標識等設置
4）	〃　4月以降	訓練・活用・評価

【今回の実施内容（予定）】

■DIG（図上検討）※2
- ・地図を広げる
- ・まち歩きでチェックした場所にシール、写真を貼り付ける
- ・「避難時注意」などと書いたメモ用紙を貼り付ける

※2　DIG（ディグ　Disaster（災害）Imagination（想像力）Game（ゲーム））とは、
一般市民が独力でも企画・運営できる簡易型の防災図上訓練ノウハウです。

＜参考＞

まるごとまちごとハザードマップ　（河川版）

「まるごとまちごとハザードマップ」とは、近年被災経験のある住民が少なくなり、自分の住んでいる地域の過去の水害や洪水の危険度を知らない人が多くなっています。

そこで、生活空間である“まちなか”に洪水が発生した時の水位や避難所までの案内標識を設置することにより、自らが生活する地域の洪水の危険性を実感するとともに、発災時に安全かつスムーズな避難行動を支援し被害を最小限にとどめる事を目的しています。

又、地域の洪水ハザードマップの更なる普及浸透及び危機意識の醸成と洪水時の避難場所等の認知度向上を図ることも目的としています。





別添２

【まち歩き実施状況】

■日　　時　平成26年11月28日（金）　13時半～16時

■場　　所　西川町田代公会堂（集会所）ほか

■参 加 者　18名（西川町沼山第2町内会住民及び行政側）

■まち歩きのルート　久保入間地区　～　田代公会堂（一次集合場所）
～　田代地区　～　工藤製材所跡（一次集合場所）
～　沼山地区　～　沼山集会センター（二次避難場所）

■主な内容　・避難場所になる箇所や土砂災害警戒区域指定（予定）箇所などを確認
・「ここは過去の土砂災害でどんな被害があったか」
・危険箇所を見つけたなら地図に印を付けて写真撮影
・避難誘導の標識設置最適箇所の選定











